

第 25 回選定委員会議事概要
(第 36 回物質・生命科学実験施設利用委員会との合同開催)

1. 日 時： 2022 年 2 月 22 日 (火) 9:30 ~ 12:00
2. 開催形式： ZOOM によるオンライン開催
3. 出席者： [委員] 有馬孝尚、加美山隆、山室修、櫻井吉晴、菅原洋子、足立匡、岸本浩通、
大竹淑恵、高原淳、日野正裕、家泰弘
(出席者 11 名、(定足数 7 名)のため委員会は成立。)
[オブザーバー] 萩谷遙平(文部科学省)、大友季哉(KEK)、中島健次(JAEA)、齊藤高志(KEK)
[事務局] 野間敬、浅井利紀、石川知子、後藤笑美

(以上、敬称略、順不同)

4. 議事次第：

1. 開 会 (9:30~9:50)

- (1) 開会の挨拶 (J&C) J-PARC センター センター長 小林隆
文部科学省 科学技術・学術政策局 研究環境課 課長 古田裕志 氏
(代理 研究環境課 課長補佐 萩谷遙平 氏)

- (2) 前回議事録の確認 (J, C) 鈴木
資料 1-2：第 35 回物質・生命科学実験施設利用委員会議事録
資料 1-3：第 24 回選定委員会議事概要
資料 1-4：物質・生命科学実験施設利用委員会規則

2. 2022A 期一般利用課題(短期、1 年)の審査概要(9:50~10:00)

- (1) 2022A 期一般利用課題(短期、1 年)の審査概要 (J&C) 鈴木
資料 2-1：2022A 期一般利用課題(短期、1 年)の審査概要(中性子, ミュオン)

3. 審議事項(10:00~10:40)

- (1) 中性子課題審査部会(NSPRC)/利用研究課題審査委員会(PEC)開催報告(J, C)
山室中性子課題審査部会長/利用研究課題審査委員会
資料 3-1：2022A 期中性子課題審査部会(NSPRC)/利用研究課題審査委員会(PEC)
及び分科会開催報告
資料 3-1 添付資料：一般利用課題(短期、1 年) P1~P9 分科会 Minutes (※)
回収資料 1：2022A 期一般利用課題(短期、1 年) 審査結果一覧(中性子)(※)
回収資料 2：2022A 期一般利用課題(短期)(新利用者支援課題) 審査結果一覧
(中性子)(※)
- (2) ミュオン課題審査部会(MSPRC)開催報告(J)
久保ミュオン課題審査部会長
資料 3-2：2022A 期ミュオン課題審査部会(MSPRC)開催報告

資料 3-2 添付資料 1 : 2022A MSPRC Minutes (※)

資料 3-2 添付資料 2 : Minutes of 2022A Sub-committee (Q1、Q2) (※)

回収資料 3 : 2022A 期一般利用課題 (短期) 審査結果一覧 (ミュオン) (※)

(3) 2022B 一般利用課題 (短期、1 年) の公募条件 (J&C) 鈴木

資料 3-3 : 2022B 一般利用課題 (短期、1 年) の公募条件

4. 報告事項 (10 : 40~11 : 30)

(1) JAEA/CROSS 施設利用課題報告 (中性子) (J, C) 川北、鈴木

資料 4-1 : JAEA 研究課題/CROSS 開発課題諮問委員会報告

資料 4-1 添付資料 1 : 諮問委員会_報告書 (※)

(2) KEK 共同利用実験審査委員会 課題審査報告 (中性子, ミュオン) (J) 伊藤、下村

資料 4-2 : KEK 物構研中性子共同利用実験審査委員会 S1 課題審査報告

資料 4-3 : KEK 物構研ミュオン共同利用実験審査委員会報告

(3) 長期課題の報告 (J&C) 長期課題幹事 齊藤

資料 4-4 : 長期課題 2017L の最終評価について

(4) Fast Track Proposal の実施状況 (J&C) 鈴木

回収資料 4 : 2021 年度 FTP 実施状況 (※)

(5) MLF の現状 (J&C) 大友ディビジョン長

資料 4-5 : MLF の現状

5. その他 (11 : 30~11 : 50) (J&C)

6. 閉 会 (11 : 50~12 : 00) (J&C)

(1) 次回の開催 鈴木

(2) 閉会の挨拶 CROSS 中性子科学センター センター長 柴山 充弘

5. 議事概要 :

5.1 開会

(1) 開会の挨拶

小林 J-PARC センター長より開会の挨拶があり、メンテナンス期間を経て予定通り MLF の運転再開ができ現在 730 kW で安定した運転をしていること、ミュオンで H ラインのコミッショニングが開始されたこと等が紹介された。続いて文部科学省科学技術・学術政策局研究環境課課長 古田裕志氏の代理としてご出席頂いた萩谷遥平 研究環境課課長補佐より挨拶があり、科学技術・学術政策局内で組織改編により J-PARC、SPring-8、SACLA 等大型研究施設を研究環境課が担当することとなったこと、予算については昨年 12 月に令和 4 年度の政府予算案が閣議決定され、J-PARC MLF については令和 3 年度と同額の予算が確保される見込みとなったこと等が述べられた。

(2) 前回議事録の確認

鈴木委員より、資料 1-3 第 24 回選定委員会議事概要について、内容は既にメールで配布され承認されているが、意見等があれば会議終了までに申し出るよう説明があった。

5.2 2022A 期一般利用課題（短期、1 年）の審査概要

鈴木委員より、資料 2-1 に基づいて 2022 期課題審査結果の概要報告があった。

5.3 審議事項

審議の開始前に委員の過半数の出席があり委員会が成立することが確認された。また以下の事項について審議が行われた。

(1) 一般利用課題（短期、1 年）の審査結果

中性子課題審査部会/利用研究課題審査委員会の山室修部会長/委員長より、資料 3-1、資料 3-1 添付資料、回収資料 1、回収資料 2 に基づき 2022A 期中性子課題審査部会（NSPRC）/利用研究課題審査委員会（PEC）及び分科会開催報告及び、2022 期中性子課題の審査結果報告が行われ、採否については利用研究課題審査委員会の提案通りに承認された。なお、共用 BL の一般利用課題（短期、1 年）及び新利用者支援課題については、申請数 137 件（1 年課題 2 件含む）、採択数 67 件（1 年課題 2 件含む）、採択率 49%であった。MLF 全体では、申請数 353 件、採択数 178 件（採択率 50%）であった。

<委員からのコメント>

○レフェリー選出の期間を 2 週間程度設けてほしいとの分科会からの要望

- ・レフェリー選出に 2 週間というのは長すぎる気がするが、レフェリー選出がうまくできる仕組みは必要
- ・過去のレフェリー歴についての情報をリストにしてシステムで見られるようにしてほしい。
- ・ブラックリストの共有も大事。
- ・リストの整備を各分科会がやると大変なので、施設で検討していただきたい。

○評価点の付け方（絶対評価と相対評価）の議論

- ・MLF は一人の審査件数が少ないため相対評価は難しいが、過去の分布も考慮し相対評価の仕組みを取り入れられないか。ただし、その期に申請された課題の中での相対評価ではなくなる。
- ・JRR-3 はレフェリー一人に割り当てられる課題数が少なく、一方で放射光は多いため、放射光は相対評価でうまくいくが、JRR-3、J-PARC は絶対評価の方が適していると思われる。
- ・JRR-3 は最近、相対評価に変え、3 点以上が 60%になるというルールでやっている。
- ・MLF では合格ラインが小数点以下二けたという実態があり、今のままの点数で良いのかという議論がある。もっと点数を散らさないと差がつかない。
- ・相対評価にすると点数を低くせざるを得ない場合があり、点数をつける方としてはそこが苦しい。
- ・相対評価を導入した方が全般として良くなる気がする。
- ・相対評価にすると、一人当たりの審査件数が増えるという問題がある。
- ・一人当たりの審査件数の多い SPring-8 では審査する人に謝金を支払っている。

- ・良い課題を選ぶことはとても大事なことで、評価方法について MLF で検討してほしい。

○資料 3-1 の訂正

- ・項番 2.2 のユーザーリスト掲載機関所属申請者からの課題は、輸出管理審査は施設側が実施すると記載されているが、正確には、JAEA ビームラインと共用ビームラインは JAEA が、KEK ビームラインとミュオンビームラインは KEK が実施しているため、資料を訂正することとなった。
- ・項番 2.1 (2) の 2 課題 (2022A0050、2022A0062) は資料ではどちらも BL08 と記載されているが、2022A0050 は BL08、2022A0062 は BL12 の誤りであるため訂正することとなった。
(2/22 に訂正版の資料を委員に送付済)

○輸出管理に関して

- ・コロナ禍において分科会などの通常の課題審査の他に、試料の送付に関する輸出管理審査など別途行っている手順があるか、また懸念する問題があるかを教えてほしい。
→試料の輸出管理審査はコロナ禍に関係なくこれまでも実施している。今回は、審査の段階で審査結果に係わらず不採択にせざるを得ない課題があったため、本委員会で報告することとなった。

(2) 一般利用課題（短期、1 年）及び 2022L 一般利用課題（長期）の公募条件

鈴木委員より、資料 3-3 に基づき 2022B 一般利用課題（短期、1 年）の公募条件について報告が行われ、提案通り承認された。また、「5. 実験実施の条件」について、鈴木委員より現状を踏まえて記載内容の修正案を作り、公募の前までに委員会に諮らせていただきたいとの説明があった。

<委員からのコメント>

- ・修正案については、英語の文章も含めて委員会に提示してほしい。

5.4 報告事項

(1) JAEA/CROSS 施設利用課題報告

川北委員より、資料 4-1 に基づき 2022 年度 JAEA/CROSS 施設利用課題及びその諮問内容・結果の報告が行われた。

(2) 長期課題の報告

長期課題幹事 齊藤氏より、資料 4-4 に基づき 8 課題中 7 課題の 2017L 長期課題の最終評価が実施され、申請者に評価結果が送付されたとの報告が行われた。また残りの 1 課題については、コロナ禍で実験実施が遅れていたが、実験が終了していることが確認されているので今後最終評価を実施するとの報告が行われた。

(3) Fast Track Proposal の実施状況

鈴木委員より、回収資料 4 に基づき 2022 年度の Fast Track Proposal の実施状況の報告が行われた。

(4) MLF の現状 (J&C)

大友 MLF ディビジョン長より、資料 4-5 に基づき MLF の現状について報告が行われた。

5.5 その他

以下の事項について議論が行われた。

○NSPRC/PEC 及び分科会開催報告で報告された剽窃が疑われる課題への対応

- ・2022A0330 の申請者へ返すコメントには、公開されているグラフを自分達が実施したかのように記載していることが問題であると伝えるのか？
→そのようなコメントにする予定。
- ・オープンになっている論文であっても引用元を明らかにしない、あるいは自分たちの成果であるかのように利用するのは国際的に剽窃である。J-PARC MLF の申請ガイドラインでも、そのような行為は剽窃であることを明記し、MLF の立場として剽窃は認めないことを表明してほしい。また、剽窃の疑いが強い課題という情報が分科会に行くように、剽窃をチェックするソフトの導入を検討していただきたい。
→申請ガイドラインに剽窃を認めないことを記載する方向で検討を行う。また剽窃のチェックソフトの導入についても検討したい。
- ・剽窃の確認はソフトウェアで行うことが良いと思うが、一方でプロポーザルは毎回相当な量になり、人的負担が大きい。また、チェックを潜り抜けるソフトウェアも存在しており、難しい問題。
→チェックをするだけであれば、1日で200~300件のチェックが実施可能。ただしそのチェックが本当に有効かという問題がある。
- ・今回、剽窃が疑われる課題を不採択等の厳しい処分にできなかったのは、剽窃に対する MLF の方針が公募ページ等に記載されていなかったため。
- ・たまたま剽窃が見つかった課題だけが、はねられるという不公平を無くすために、剽窃チェックソフトを導入する意味がある。
- ・論文の主著者がいた場合でも剽窃になるのか？
→剽窃となるのは、自分達が行った研究として他人の成果や論文を利用した時である。自分達の一部がその著者の一部となって論文を書いていた場合は剽窃ではない。
- ・以前、全く同じような課題が違うグループから出てきたことがあり、ビームタイムの無駄遣いにならないよう共同での実験を提案し受け入れていただいたケースがある。

○文化財の研究の価値判断

- ・ミュオン課題審査部会の報告で、文化財の研究の価値判断について議論があり、文化的価値の判断ができる人の意見も聞けるよう体制を検討し始めているとの報告があった。
- ・ミュオンだけでなく中性子も含めて MLF 全体として検討をしていただきたい。
→具体的な体制などはこれからの検討となるが、KEK 物構研でも分離融合推進室のようなものを作ろうとしており、その意見も伺いながら検討を進めたい。
→システムを作るほどの申請数はないと思うので、柔軟に対応できる体制を整えるのが良い。マイナーだけど重要なものをどう審査するか、ガイドラインがあると良い。

5.5 閉会

(1) 次回の開催

鈴木委員より、次回の開催を 2022 年 8 月末から 9 月の初めに予定しているとの報告があった。また回収資料の削除のお願いがあった。

(2) 閉会の挨拶

柴山 CROSS 中性子科学センター長より閉会の挨拶があった。

以上